



## 手術体験セミナー開催

手術部 副部長 古泉 真理

未明からの雨により少し暑さから解放された8月26日、手術体験セミナーが開催されました。このセミナーは、実際の手術で使われる手技を模擬体験し、医師という職業に興味を持ってもらうために行われています。今年は10回目という節目を迎え、県内6校から36名の高校生に参加して頂きました。はじめに、横見瀬病院長から、開会挨拶のお言葉を頂きました。全員で糸結びの練習をしたのち、各グループに分かれ、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器副腎腎移植外科、麻酔ペインクリニック科の先生がたにご協力頂き、シミュレーターなどを用いた手術模擬体験コーナーを6つ廻っていきました。ランチタイムには、2名の医学生に手術実習の体験談を語って頂きました。二人とも、以前このセミナーに参加した経験があり、高校生からの質問に対して、丁寧に答えてくれました。



どのコーナーでも高校生たちは熱心に説明を聞き、楽しみながらも緊張感をもって操作をしていました。彼ら、彼女らとともに働く日がいつくることを期待しております。

最後になりましたが、多大なるご協力を頂きました、各先生がた、医学部学生、事務スタッフの方々に心から御礼申し上げます。

## 第十六回卒後臨床研修指導医養成講習会の開催報告

卒後臨床研修センター長 松原 修司

去る8月26日(土)・27日(日)の2日間、第十六回 香川大学医学部附属病院 卒後臨床研修指導医養成講習会を開催しました。

指導医養成講習会とは、研修医を受け入れ指導する病院側の指導者の養成を目的とした講習会です。開催については、厚生労働省の指針にのっとり開催することが規定されており、報告書の提出も求められています。

今年度も、齋藤 宣彦先生(医療系大学間共用試験実施評価機構 副理事長・聖マリアンナ医科大学名誉教授)を中心に講習内容を企画いただき、世話人の先生方(9名)の指導のもと、本院23名および県内の協力型臨床研修病院8施設より9名の計32名の先生方が受講され、厚生労働省医政局長認定の修了証書を授与いたしました。指導医として認定される全国共通の資格であり、指導医養成を通じて、県内の研修医の育成体制充実にもつながっております。



特別講演では、田中 信一郎先生(中国四国厚生局健康福祉部医事課臨床研修審査専門官)、清元 秀泰先生(国立研究開発法人 日本医療研究開発機構:AMED)にご講演を賜り、研修医指導のあり方を見つめ直し、今後の医師育成を改めて熟考する貴重な機会となりました。

関係各位のご協力に心より感謝申し上げます。

「まぶた」は医学用語で眼瞼(がんけん)と呼ばれます。眼瞼は眼球と角膜を保護し、乾かないように保湿する役割を果たしています。加齢に伴い、まぶたは次第に垂れてきます。これはまぶたを開ける筋肉(眼瞼挙筋:がんけんきょきん)が、齢を重ねるにつれて緩んでくるために起こります。

この状態は眼瞼下垂(がんけんかすい)と呼ばれます。眼瞼下垂は手術により治すことができます。まぶたのかたちを治すというと、美容整形のように思われ、病院に行くのをためられる方もおられるかもしれませんが。

しかし眼瞼下垂の治療は美容形成ではありません。まぶたが垂れてくると視野が狭くなります。このため日常生活、とくにパソコン画面やテレビを見たり、車の運転をしたりするのが苦痛になります。すなわち眼瞼下垂は機能の損失をもたらす、れっきとした病気なのです。したがって、眼瞼下垂の治療には健康保険を使うことができます。両眼を手術する場合、保険を使えば手術費用は5~6万円くらいです。また手術時間は1~2時間くらいで、局所麻酔で治療を行うことができます。入院は必ずしも必要ありません。

まぶたの治療というと眼科へ行けばよいようにも思われますが、眼球(目の玉)と眼瞼(まぶた)は全く性質の異なる組織です。「まぶた」は主として皮膚と軟骨・筋肉によって構成されています。これらを扱うのは形成外科医の得意とするところですが、香川大学形成外科では「まぶた」の治療に特に力を入れており、全国的に見てもトップクラスの治療成績をあげています。

加齢による他に、生まれつき先天的にまぶたが垂れている場合もあります。これは先天性眼瞼下垂と呼ばれ、弱視の原因になるので子供のうちに手術を行うことが必要です。

まぶたが垂れた状態である眼瞼下垂の他にも、まぶたには種々の原因で変形がおこります。たとえば交通事故やその他のケガにより、まぶたにキズアトが残ることがあります。また、火傷によりひきつれが残ることもあります。あるいは、まぶたや眉毛にうまれつきアザがある方もおいでになります。

形成外科の技術を使えば、こうした悩みの多くは解決します。「まぶた」の問題でお悩みの方は、ぜひ香川大学形成外科をご受診ください。

## 平成29年度 関係医療機関懇談会を開催

### 医師キャリア支援センター

8月24日(木)市内ホテルにおいて、平成29年度関係医療機関懇談会が開催されました。この懇談会は、地域の関係医療機関との診療連携や協力体制をより強化することおよび大学病院の現状等を報告することを目的としています。関係医療機関から病院長等57名、本院から38名、総勢95名の参加がありました。

冒頭に横見瀬病院長から挨拶および大学病院の現状と将来構想等について説明がありました。続いて、四国こどもとおとなの医療センター 中川病院長および高松赤十字病院 網谷病院長よりそれぞれの医療機関の取り組み等についてご講演いただきました。

次に、新たに本学に就任した永竿教授よりご挨拶および教室のご紹介があり、最後に当センター 池田より来年度より開始が決定した新専門医制度の説明を行いました。

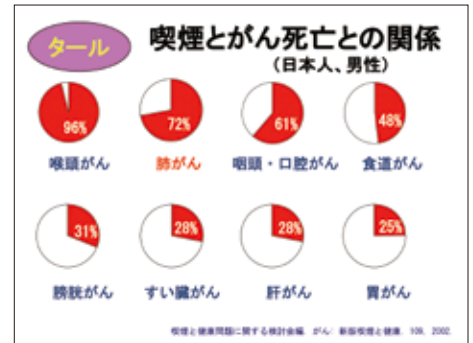
引き続き開催された懇親会では、活発な意見・情報交換が行われ、盛会のうちに終わることができました。



肺癌は日本人の癌死因の一位を占める病気であり、その治療は手術が中心です。治療成績は100%治る肺癌から残念ながら命を落としてしまう段階までさまざまです。最近は患者さんに負担の少ない低侵襲手術の普及や、新しい抗癌剤、放射線技術の向上もありその治療成績は改善してきています。

しかしながら、肺癌にならないければ肺癌で命を落とすことを心配する必要がないのは自明の理です。そのための最も効果的な方法は禁煙です。当然タバコを吸わない人でも肺癌にはかかってしまうのですが、タバコは喫煙者だけでなく周囲の人への悪影響も大きく、自分だけでなく周囲の人の健康のためにも禁煙は大切です。

【図1】



### ▼タバコの害その1.

タバコと癌の関係は良く知られていますが、これは煙の中に含まれるタールという成分が大きく影響すると言われてしています。統計的には喫煙者のうち男性では約77%の人が、女性では約57%の人が肺癌にかかっています。タバコを吸う人と吸わない人では男性、女性ともに喫煙者のほうが非喫煙者に比べて約4倍肺癌にかかりやすくなると言われています。

またタールが影響する癌として肺癌の他には喉頭癌、咽頭癌などが有名です(図1)。

### ▼その2.

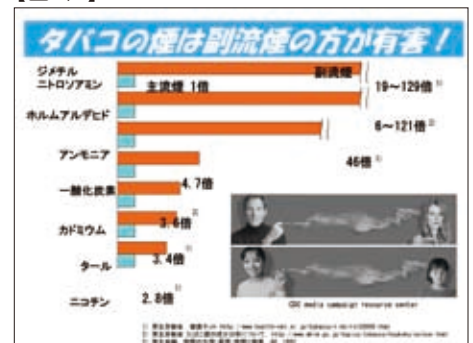
タバコを吸うと息がきれるといいますが、これは煙に含まれる一酸化炭素が原因と考えられます。血液の中にはヘモグロビンといって、呼吸によって体に取り込まれた酸素とくっつきこれを全身に送り届けるために大切な物質があります。一方で、タバコに含まれる一酸化炭素は酸素より血液の中のヘモグロビンくっつきやすい性質があります。

これにより喫煙者の場合は、本来血液にのって運ばれるはずの酸素の量が一酸化炭素とヘモグロビンとが先にくっつくために少なくなってしまう。全身に送られる酸素が少ないと心臓や筋肉にも負担がかかってしまいます。

### ▼その3.

喫煙者は自己の意思で煙の害を受けているとも言えますが、煙の中でも周囲の人に害を及ぼすのが副流煙の存在です。タバコの煙にはタバコの先から立ち上る副流煙と、喫煙者が口から吸い込む主流煙があります。有害な成分をたくさん含むタバコ煙ですが、副流煙の方が主流煙よりもはるかに多くの有害な物質を含んでいます。図のように副流煙は主流煙に比べて、数倍～数十倍の有害物質を含んでいます(図2.3)。

【図2.3】



自分のためにも周囲の人、特に家族のためにも禁煙が必要です。現在は禁煙外来といって専門医のカウンセリングを受けながら、ニコチンガムやパッチなどの助けをかりつつ比較的スムーズに禁煙ができるシステムが整ってきています。でも何よりも禁煙の必要性を自分で明確化し、自身で強く思うことが禁煙の成功の秘訣です。

そして禁煙を行うための環境整備をし(タバコ、ライター、灰皿を捨てる、タバコが吸いたくなる場所へ行かない、など)、医師や専門家の助けを借りながら、無理をせず禁煙を実行してみてください。そして自身の健康維持と周囲の人の健康を気にかけて快適な生活を送っていただきたいと思います。



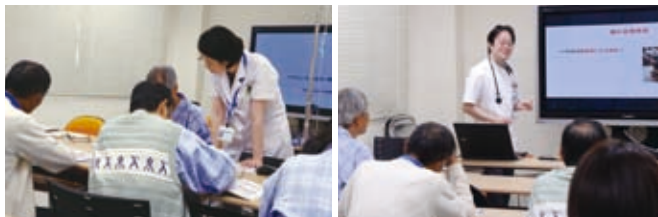
## 糖尿病教室について

### 糖尿病センター

糖尿病教室は、月2回隔週木曜日に入院・外来患者さんやその家族を対象に行っています。

教室は2コマ合計80分の講義形式となっています。

1コマ目は40分の管理栄養士による食に関する講義、2コマ目は30分の医療スタッフ(医師・看護師・理学療法士・検査技師・歯科衛生士・薬剤師)による講義が行われます。



定期的に参加することで糖尿病に関する正しい知識が得られる内容となっています。

旬や話題となっている内容も取り入れるようスタッフも意識しながら取り組んでおります。

これからも糖尿病教室の運営にご協力を宜しくお願いいたします。

## 臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長  
医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

## イベントカレンダー H29.10~11月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
10/12 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:食品交換表 医師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
10/15 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- 「みなさんに知ってほしい胃がんのこと-胃がんの外科治療について-」	総務課	(087)891-2008
10/26 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:意外と知らない食べ物の落とし穴 薬剤師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
11/2 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:食生活見直しませんか? 医師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
11/11 土	14:00~16:00	高松テルサ	肝疾患市民公開講座	地域連携室	(087)891-2363
11/16 木	14:00~15:10	西1階 臨床栄養部研修室	【糖尿病教室】管理栄養士:手ばかりを確認しよう 検査技師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
11/16 木	14:00~16:00	西病棟1階カンファレンスルーム	がん患者サロン 日本折紙協会香川支部講師による「折紙療法」	がん相談支援センター	(087)891-2473
11/26 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- 「がん治療の夜明け-新時代治療のはじまり-」	総務課	(087)891-2008
11/26 日月 27 月 28 火	12:00~ 8:30~ 8:30~	JRホテルクレメント高松 サンポートホール高松	第35回日本脳腫瘍学会学術集会	脳神経外科	(087)891-2207
11/30 木	17:30~19:00	レクザムホール(香川県民ホール) 小ホール棟4F「大会議室」	日本皮膚科学会第61回香川地方会	皮膚科	(087)891-2162

# イキイキさぬき健康塾

## 香川大学医学部附属病院 医療セミナー

高松市内で定期的に行っている医療セミナー「イキイキさぬき健康塾」がケーブルメディア四国のコミュニティチャンネルで放送中です。実際にセミナーにご参加いただいた方の振り返りに、セミナー当日に参加できなかった方に、医療セミナーに興味のある方に、皆様ぜひご覧ください。

### 編集委員会 (50音順)

荒井(検査)、石井(外来)、小野(総務)、笹川(放射線)、白神(麻酔)、田川(管理)、田中(看護)、藤原(病棟)、芳地(薬剤)、横井(情報)、横山(経営)、吉野(医事) [委員長 横見瀬病院長]